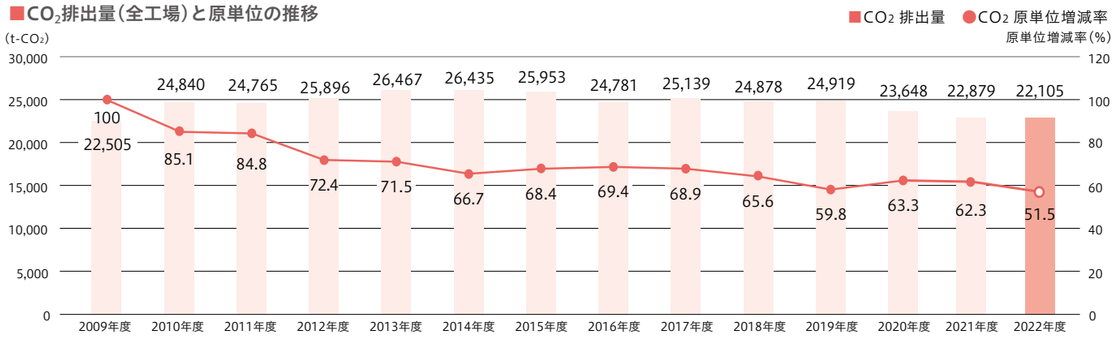
Global Warming Suppression

地球温暖化抑制

カーボンニュートラルの実現へ向けて、省エネルギー活動を推進

近年、地球温暖化抑制対策は急務となっています。当社でも環境課題の最優先テーマとして捉え、1995年の環境方針策定時から「CO_2削減」を入れて、中長期的に目標を定め取り組んでおり、着実に成果を出してきました。2022年には、「2050年までにカーボンニュートラルの実現」を宣言し、第九次中期環境活動計画を立て推進しています。

■CO_2排出量（全工場）と原単位の推移



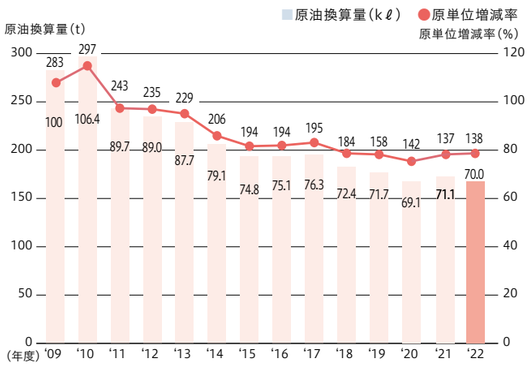
※1. 電力換算係数を「0.555」、都市ガス換算係数を「1.96」として計算しています。
※2. 原単位増減率とは2009年度の原単位を基準として各年度の原単位に対する増減率を示しており、その原単位はCO_2排出量÷生産高で算出しています。
（パーセンテージが低いほど、エネルギーを有効活用していることになります）

営業所の省エネ活動効果

全営業所

2010年4月1日より「省エネルギー法」の対象範囲が大幅に改正され、当社の営業所も省エネ活動の対象となりました。2011年度以降は震災の影響もあり、従業員の意識も高めつつ継続した削減活動を続けています。

■エネルギー使用量（全営業所）と原単位の推移



※3.原単位は原油換算量÷床面積を示しており、原単位増減率は2009年度の原単位を基準として増減率を示しています。
（パーセンテージが低いほど、エネルギーを有効活用していることになります）

レーザー加工設備からの排熱処理の効率化と有効活用

菊川工場

レーザー加工設備は高温の排熱が出るため、その排熱で工場全体が暑くならないよう設備周辺を区画し換気扇にて排出していましたが、夏季には設備の排熱によって区画内が高温になり設備への影響が懸念される状況でした。対策として設備の排気口に直接ダクトを取り付けて屋外に熱を排出することで換気扇を停止でき、しかも設備への影響を排除することができました。また、ダクトに切替ダンパーを設け、冬季には排熱を室内に送り室内暖房の補助に活用しています。

効果 **11.08** t-CO_2/年 CO_2 削減

事業者クラス分け評価制度に基づく2021年度の結果

事業者クラス分け評価制度に基づく2021年度の結果が2023年5月に資源エネルギー庁のＨＰに公表されました。その中で当社は、3年連続でＳ評価（省エネに努める優良事業者）を受けています。

評価 **S** 3年連続（省エネに努める優良事業者）

COOLBIZ・WARMBIZの実施

COOLBIZ実施期間
5月1日～9月30日

WARMBIZ実施期間
11月1日～3月31日

全社

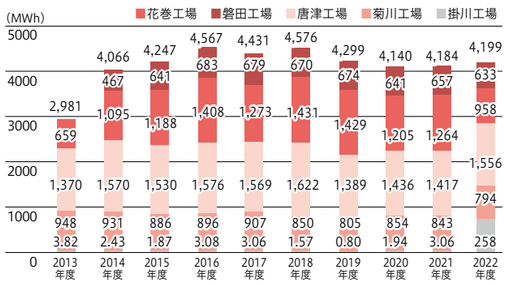
環境省が後援する国民運動「COOL CHOICE」では、主要施策のひとつとして、室温の適正化とその温度に適した軽装などの取組を促す「クールビズ」を推進しています。
当社でも、COOLBIZ、WARMBIZを推進しており、COOLBIZ実施期間中にお越しのお客様に対して、社員の服装は、ノーネクタイ、ノージャケットで対応させていただいています。

クリーンな電力供給への取り組み

菊川工場、磐田工場、唐津工場、掛川工場、花巻工場

2011年の東日本大震災以降、再生可能エネルギーの1つである太陽光発電エネルギーが注目されています。当社では太陽光発電システム関連製品の研究開発の一環として、2013年より菊川、唐津、花巻の3工場で太陽光発電設備を設置し、売電事業を行なっています。
2014年には磐田工場に、2016年には花巻工場に同設備の設置・増設を行ない、合計発電能力3,100kW（2023年3月時点）のクリーン電力を供給してきました（下グラフ参照）。
今後も当社の太陽光発電システム関連製品の普及をとおして、クリーンな電力供給と再生可能エネルギーの推進に寄与していきます。

■日東工業全体での発電実績



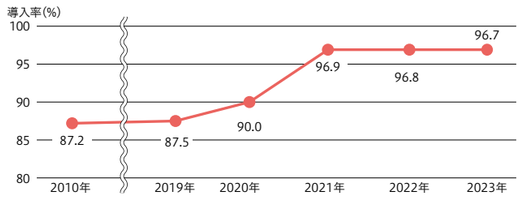
自動車エコ事業所

本社・名古屋工場

従業員向けEV・PHEV用充電設備

愛知県では2002年10月に「あいち新世紀自動車環境戦略」を策定し、「愛知県自動車排出窒素酸化物及び自動車排出粒子状物質総量削減計画」とともに、各種自動車環境対策を総合的に推進しています。
2013年には、「あいち自動車環境戦略2020」として見直され、安心・快適な暮らしを支え、環境と自動車利用が調和した社会の実現を目指し進められています。
当社ではこの愛知県の取り組みに賛同し、2010年に自動車エコ事業所として認定を受け、積極的なエコカー導入を進めてきました。2023年4月の時点での導入率は、下グラフのとおりになっています。
今後も当社EV・PHEV用充電関連製品の普及も含めた自動車環境対策の取り組みに貢献していきます。

■エコカー導入率の推移

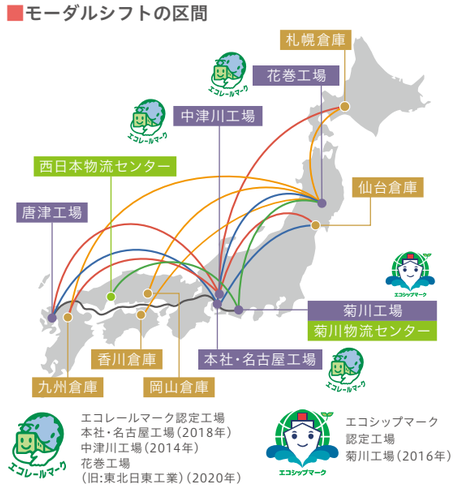


モーダルシフトの取り組み

本社・名古屋工場、菊川工場、中津川工場、唐津工場、花巻工場

日本の物流はトラックによる運送が主体ですが、トラック運送はCO_2の排出量が多いこと、昨今のドライバー不足が深刻化していることから、トラックから別の運送手段への切り換え（モーダルシフト）が注目されています。
当社では2010年から中津川工場で生産しているキュービクル（高圧受電設備）の鉄道運送の検討を開始し、2014年2月の菊川工場～東北日東工業間（当時）を皮切りに、中津川工場、札幌倉庫、九州倉庫、唐津工場、仙台倉庫、西日本物流センター、本社・名古屋工場、岡山倉庫、香川倉庫（切替順）で鉄道輸送への切り替えを進めています。
こうした取り組みにより、2014年12月には、経済産業省、国土交通省他より「グリーン物流優良事業者表彰」の特別賞を受賞し、2016年7月には、国土交通省より「エコシップ・モーダルシフト優良事業者」として表彰されました。
また、花巻工場は、2018年よりキュービクルの鉄道輸送を開始。
その結果、2019年度は札幌倉庫へ発送したキュービクルの大半を鉄道輸送に切り替えることができました。この取り組みついても評価され、2020年3月に「エコレールマーク」認定を取得することができました。

■モーダルシフトの区間



エコレールマーク制度：環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している商品又は企業に対して、「エコレールマーク」の認定を行い、マークの表示によって消費者に判断基準を提供する制度。（国土交通省ホームページより）
https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_tk2_000008.html